

令和7年度釧路市標準学力検査の結果分析について〔釧路市立景雲中学校〕

令和8年2月13日

過日、令和7年12月に実施しました標準学力検査の結果がきましたので、本校の結果を分析し、今後の対策や教育活動等の改善について検討したところです。つきましては、その概要と今後の取組の方向性をお知らせいたします。すでに配付している個人票とあわせてご覧いただき、学習や生活の見直しに活用していただけるようお願いいたします。

レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

〔1年生〕	
<h3>国語</h3>	<h3>数学</h3>
<p>【分析】 ○成果 ●課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の正答率は全国を2.5%、活用は7.8%上回った。 ○ 「書くこと」の正答率は全国を14.9%、「読むこと」は0.9%上回った。 ○ 昨年度よりも、「評定2と1」の割合が減少した。 ● 「漢字を書く」や「文法・語句に関する事項」の知識・技能で全国を下回った。 ● 昨年度よりも、無解答率が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全体の正答率は全国を1.1%、活用は2.8%上回った。 ○ 「数と式」で全国を1.7%、「図形」で5.6%上回った。 ○ 昨年度よりも、「評定2と1」の割合が減少した。 ● 「比例・反比例」が最も低く、正答率が44.8%で全国を1.9%下回った。 ● 昨年度よりも、無解答率が増加した。
<p>生活行動・学習活動調査の結果から</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「友達から認められていると思う」の肯定的な回答の割合は86.3%で全国平均より17%、「家の人から認められていると思う」は83.1%で全国より3%、「先生から認められていると思う」は83.1%で全国より22%、それぞれ高い結果となった。 ○ 「自分にはよいところがある」の肯定的な回答の割合は77.4%で全国平均より13%、「自分のことが好き」は62.9%で全国より9%、それぞれ高い結果となった。 ● 「平日、学校の授業以外での学習時間が1時間以上」と回答した割合が48.4%で全国平均よりも13%低く、本校の昨年度と比較すると20%下がっている。家庭学習週間の定着が課題である。 ● 「勉強にパソコンを利用している」の回答の割合は61%で全国より23%高いが、「勉強に辞書を利用している」18%で全国より31%低い。タブレット端末などで、簡単に調べられることが要因と考えられ、端末利用の仕方が課題である。 * 「参考書や問題集を使って勉強している」の質問について、学力検査の正答率の高い生徒の層ほど、肯定的な回答が多かった。 * 「学校に行く前に忘れ物がないか確かめている」の質問について、学力検査の正答率の高い生徒の層ほど、肯定的な回答が多かった。 	

【今後の本校の取組】

- ◎ 引き続き、学級経営や生徒指導を充実させ、安全・安心な居場所づくりや共感的な人間関係を育成し、協力的な学びの基盤をつくります。
- ◎ 5教科において、正答率の低かった内容について3学期中に補充的な学習に取り組み、進級に備えます。
- ◎ 各教科において、「書くこと」への指導を継続し、「読むこと」への指導にも力を入れていきます。
- ◎ 各教科の授業において、意図的・計画的に復習する場面を設定し、既習事項の定着を図り、学びのつながりを持たせます。
- ◎ タブレット端末の効果的な利用について研修を重ね、生徒に還元していきます。
- ◎ “ほか勉”の意義を継続的に指導し、テスト前の計画・記録と合わせて家庭学習習慣の確立に向けた指導をしていきます。
- ◎ 学級や学年、各教科、放課後サポートルームが連携して、家庭学習習慣の定着を目指します。

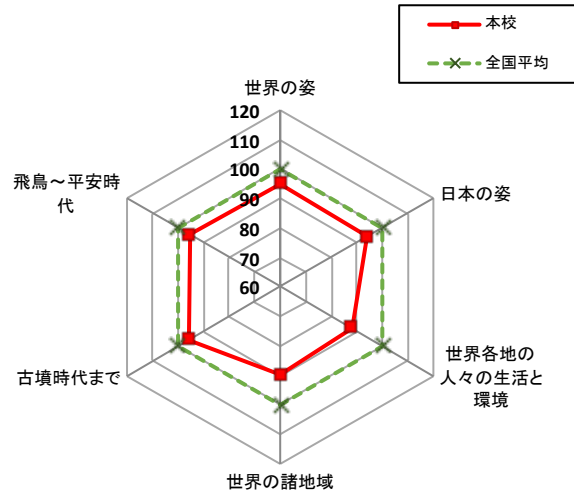
【家庭にお願いしたいこと】

- ◎ お子様の自立に向け、決まった時刻の就寝や朝食をしっかりとるなど、基本的な生活習慣の定着を図るようご家庭でのお声かけをお願いします。
- ◎ 毎日の家庭学習の取組が学習内容の定着につながります。学習に向かう環境づくりにご協力をお願いいたします。

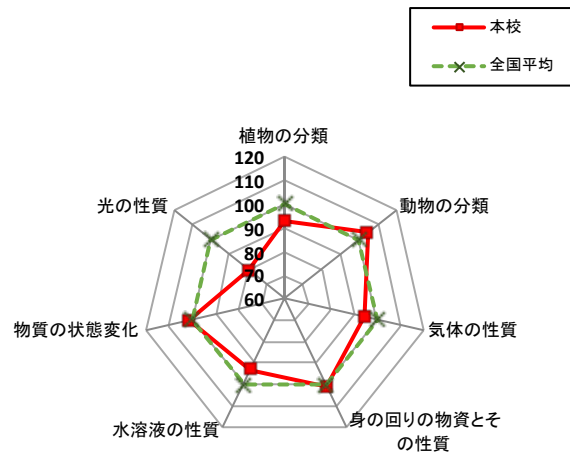
レーダーチャートは、各教科の問題内容の全国平均を100とした場合の本校及び全国平均の状況を示したものです。

〔1年生〕

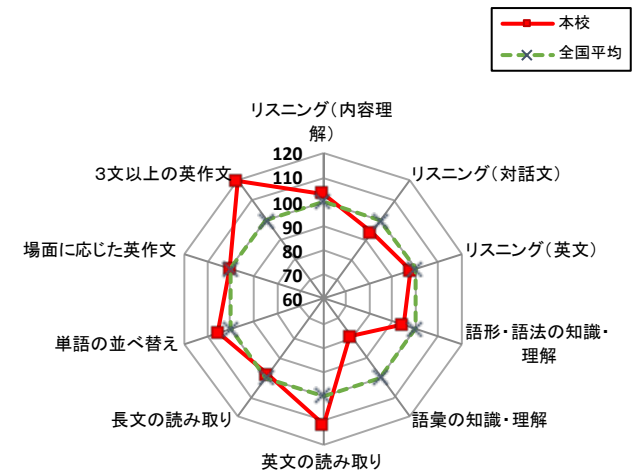
社会



理科



英語



【分析】 ○成果 ●課題

- 歴史において、古墳時代までの知識を問う問題の正答率は、全国を10%程度上回っている。
- 地理において、世界の姿に関する知識を問う問題の正答率は、全国と同程度のものが多かった。
- 基礎の正答率は、全国を3.1%、活用は4.4%下回った。
- 特に地理分野の正答率が昨年度よりも下がり、全国より4.5%低かった。
- 昨年度よりも、無解答率、「評定2と1」の割合がともに増加した。

- 「動物の分類」の正答率は、全国を10%程度上回った問題が多い。
- 「身の回りの物質とその性質」と「物質の状態変化」の正答率は、どちらも全国と同程度だった。
- 昨年度よりも、「評定2と1」の割合が10%程度減少した。
- 基礎の正答率は全国を2.8%、活用は全国を2.3%下回った。
- エネルギーの領域の正答率が特に低く、全国を8.4%下回った。

- 全体の正答率は全国と同程度、活用は全国を4.8%上回った。
- 「書くこと」の正答率は全国を3.8%、「3文以上の英作文」は全国を7.4%上回った。
- 昨年度よりも、「評定2と1」の割合が減少した。
- 「聞くこと」の正答率は全国を0.7%、「読むこと」は全国を1.6%下回った。
- 語彙の知識・理解が特に低く、全国を13.5%下回った。